

# つめのトラブルについて

皮膚科

今

回は足の爪のトラブルで多いものについて挙げてみましょう。まず爪白癬（爪みずむし）ですが、最近テレビCMや新聞広告で取り上げられるようになり、皮膚科にいらっしゃる方がずいぶん増えました。はじめに爪の変色や濁りを生じ、そのうちに爪の下に白くもろい角質が厚みを増し、爪を押し上げるように溜まってきます。あまり症状がないために長い間放置していた方々も治療すれば治ることを知って下さるようになり、大変喜ばしいことと思っています。

主な治療はカビの菌を殺す飲み薬を飲むことで、血液中から足の爪に薬が運ばれ爪の中に貯留して効果をあらわします。ここで1つ問題なのは、飲み薬が爪以外の臓器に与える影響です。爪白癬の飲み薬は肝臓や腎臓に副作用が出ることもあり、定期的に血液検査を受けておくことが必要です。爪が伸びる間の期間およそ半年にわたって内服するため、この間は月に1回程度検査します。もし、副作用のために飲み薬が使えなくても塗り薬での治療も工夫していますので、ご相談ください。

次に多いものとして陥入爪があります。これはハイヒールや足に合わない靴を履き続けた結果、爪が湾曲して周囲の皮膚にくい込んでキズをつくり歩行が困難なほど痛みを起こします。たいていはキズから細菌が入って化膿したり腫れたりするので抗生物質の内服が必要です。炎症が治まってからは再発を繰り返さないように、爪を元の形に戻してあげることが目標です。治療に難渋しますが、爪の切り方や正しい靴選びなどで改善することもあります。

深爪をすると余計に爪の変形が進むので、足の爪の正しい手入れを覚えて根気よく続けるようにしましょう。

梶山 理嘉



皮膚科・小児科  
**多摩ガーデンクリニック**  
東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

予約・お問い合わせ  
**042-357-3671**

※皮膚科と小児科では診療時間及び受付時間が異なります。詳しくは受付・電話にてご確認ください。